

kanagawa ARTS PRESS

神奈川芸術プレス Vol.150

10|11
2019



撮影:藤原亮子

CREATOR'S VOICE 169
ファビオ・ビオンディ オペラ「シツラ」日本初演

やなぎみわ展 神話機械 MIWA YANAGI : Myth Machines
一柳 慧プロデュース フラックス弦楽四重奏団
年間ラインアップ発表——共生共創事業

隔月刊:奇数月15日発行

『シツラ』はヘンデルの美しい音楽がぎゅぎゅりつまったオペラ。「イタリアの美しい音」を音楽堂のすみずみまで届けたい。

開館65周年記念 音楽堂室内オペラ・プロジェクト バロック・オペラ ヘンデル「シツラ」全3幕 日本初演

神奈川県立音楽堂

ファビオ・ ビオンディ

音楽監督・指揮・ヴァイオリン



バロック音楽発祥の国イタリアに生まれ、世界の「古楽」ブームを牽引するリーダーの一人として活躍するファビオ・ビオンディ。古楽オーケストラ「エウロパ・ガランテ」を立ち上げ、ヴィヴァルディの『四季』のような超有名曲から埋もれたレパトリの発掘まで、幅広い分野に情熱を捧げてきた。2006年と2015年に神奈川県立音楽堂で日本初演された2本のヴィヴァルディ・オペラは、オ人ビオンディの真髄を知らしめた名演として大絶賛。来年の2月には、3作目としてヘンデルの『シツラ』が上演される。もちろん日本初演だ。イタリアにおける「古楽」から『シツラ』の魅力まで、古楽シーンをリードする注目のマエストロに話っていた。

——イタリアはバロック音楽やオペラが生まれた音楽の国ですが、聴衆の趣味は保守的だという印象があります。そのようなイタリアで「古楽」ブームを担われていますね。

イタリア人はオペラを愛しているのですが、決まった作曲家の決まった演目を好む傾向があります。主に19世紀の、ロッシーニ、ヴェルディ、プッチーニといった作曲家の有名作品ですね。バロック・オペラやマイナーな作品は、フェスティバルでの上演ならいいのですが、ふだんの劇場のレパートリーにはなりにくい。

でも、私の前にも「古楽」に関心を持ったイタリア人アーティストはいました。パイオニアは、1970年代にボローニャの劇場でヴァイオリン奏者をしていたルイジ・ロビエギです。ちょうどヨーロッパで古楽ブームが起きていて、レオンハルト、アーノクルといったアーティストが活躍しており、彼らの影響が大いにありました。

——ビオンディさんの「古楽」との出会いについて、具体的に教えてくださいませんか？

1976年に、レオンハルトとアーノクルの『マタイ受難曲』を聴いたことはとても大きかったです。ルーティンの演奏に限界を感じていたので、作曲家や時代が何を求めているのかを考え直し、



ファビオ・ビオンディ
Fabio Biondi

イタリア、パレルモ出身。1990年、イタリア・バロック音楽アンサンブル「エウローパ・ガランテ」を結成。ソリスト、指揮者としても数多くのオーケストラと共演。ノルウェー・スタヴァンゲル交響楽団のバロック音楽のための芸術監督。サンタ・チェチーリア音楽院学芸員。バレンシアのパラ・ド・ラ・アルテオーケストラ音楽監督。2015年、フランス文化省から芸術と文学の国家学術員に指名されるなど、世界の古楽界を牽引し続けている。



トリノ・カリニャーノ劇場にて

フレージングやアーティキュレーション、デュナーミク、様式などをきちんと追求するべきではないかと思い始めました。それが自分にとつての古楽のスタートです。今の古楽界はちよつと新しいものを追い求めすぎて、アナキーになっていく傾向がありますが、重要なのは「作曲家」であり、演奏家の自己表現ではないことを忘れてはいけません。

「美しい音」の追求 イタリア人の個性は

——「古楽」を追求するにあたって、お手本にした方はいますか？

基本的には仕事と並行して、つまり研究が進んでいる団体を演奏することで学びましたが、「師」と言えるのはエンリコ・ガッティというヴァイオリニストです。彼は「イ・ムジチ」のメンバーでした。「イ・ムジチ」は古楽の団体ではありませんが、私たちの「エウロパ・ガランテ」との共通点があります。それは「美しい音」の追求です。そこそイタリア人の個性なのです。

「古楽」というと、「音が美しい」という印象はあまりありません。けれど私たちイタリア人は、丸く、やわらかく、暖かい「イタリアの音」、「美しい音」を求めます。それは楽譜から読み取ることができる。私

たちイタリア人ヴァイオリニストの先達である大作曲家、コレリもジェミニアーニもヴェラチーニも、みな「美しい音」を奏でていたはずですよ。

『シッラ』はヘンデル初期の 美しい音楽の集大成

——音楽堂でのバロック・オペラですが、これまでの2回はイタリア人のヴィヴァルディの作品、『バヤゼット』と『メッセニアの神託』を取り上げられました。

『バヤゼット』は、ヴィヴァルディの充実に作曲された作品です。キャリアの晩年、1730年代に書かれています。ヴィヴァルディは当時自分が時代遅れになったと感じていて、様式を変えようとし、それに成功して音楽がとても豊かになった作品なのです。『メッセニアの神託』も充実期の作品で、彼のヒットパレードのような作品ですね。

——なぜ今回、ドイツ人でイギリスに帰化したヘンデルの『シッラ』というオペラを選ばれたのですか？

ヘンデル初期の美しい音楽の集大成といえるオペラだからです。ロンドンに来て『リナルド』で最初の大成功を収め、神のように崇められていた、ヘンデルの幸甚な時代の作品でもあります。楽譜もほ



開館65周年記念 音楽堂室内オペラ・プロジェクト

バロック・オペラ ヘンデル「シッラ」全3幕 日本初演(イタリア語上演/日本語字幕付)

2020年2月29日(土)・3月1日(日) 14:00 神奈川県立音楽堂 *13:15~ ヒオンディによるプレトーク

音楽: G.F. ヘンデル 台本: ジャコモ・ロッシ

音楽監督: ファビオ・ピオンディ (指揮・ヴァイオリン) 管弦楽: エウローパ・ガランテ

演出: 彌勒忠史 美術: tamako☆ 衣裳: 友好まり子 照明: 稲葉直人 (ASG)

台本・字幕翻訳: 本谷麻子 舞台監督: 大澤 裕 (ザ・スタッフ)

シッラ: ソニア・プリナ (コントラルト) クラウディオ: ヒラリー・サマーズ (コントラルト)

メテッラ: スンヘ・イム (ソプラノ) レビド: ヴィヴィカ・ジュノー (メゾ・ソプラノ)

フラヴィア: ロベルタ・インヴェルニッツィ (ソプラノ) チェリア: マリア・イノホサ・モンテネグロ (ソプラノ) 神: ミヒャエル・ボルス (バリトン)

全席指定 S15000円 A12000円 B10000円 学生 (24歳以下) 8000円

*レクチャーコンサート、マスタークラス等プレ企画も予定

*未就学児入場不可 託児サービスあり *開場開演前 無料シャトルバスあり

www.artspress.jp



このマークの記事にはWEB版だけの+αコンテンツも!

ほ残っていて、第3幕の海での嵐のシーンなどほんの一部の欠落はありますが、ヘンデルのほかの作品から転用して補うことができます。ヘンデルには『ジュリオ・チエーザレ』など有名なオペラもあります

が、今の聴衆は知的だし、聴衆の方の立場からしても、色々なパトリリーを知

る方が面白いのではないのでしょうか。

上演時間が2時間と短いのも、聴衆にとっては利点なのではないかと思えます。上演中に飲食やおしゃべりをしていた当時と、舞台上に集中して聴くのが当然の今では、聴き方が違います。ヘンデルの他の有名オペラだと、4時間も集中しなければならぬ。『シッラ』は短いけれど美しく、カット

しないで上演できる理想的なオペラです。

『シッラ』が短いのは、劇場のために書かれた作品ではないからです。おそらくバリーントン邸での私的な催しのために作曲

され、招待客だけが聴くことができた。台本がやや乱暴なのは、そのせいもあるのではないのでしょうか。けれど音楽はとても充実しているので、大半が『アマティー』というオペラに転用され、一般の聴衆に開かれたのです。

2017年にこの作品を初めて演奏し、録音もしましたが、「音楽が美しい」と絶賛されました。

——今回は彌勒忠史さんによる演出がつかのですね。

ええ。彌勒さんとは『メッセニアの神託』で共働して、とてもうまくいったので今回もお願いすることにしました。小さなオペラですが、場面を作る時には色々な効果が必要だし、スベクタクルな部分もあります。最後のどんでん返しがあつという間に起こってしまうなど物語にわかりづらい部分があるので、それを補う意味でも演出が重要ですね。シッラが独裁者であることを、聴衆にわかしてもらわなければなりません。「権力のおかしさ」を見せなければならぬ。そして最後にたどりつくのは「愛の勝利」です。日本ならではの演出も取り入れられたらと思っています。

——初演の時はカストラートが歌った役は、女性が歌うのですか。

ええ。カウンターテノールを使う指揮者もいますが、カウンターテノールはいわば現代の発明。女性の声のほうの方がセットを使わない分「自然」だし、カストラートの声に近いと考えます。最後のカストラートだったモレスキの録音が残っていますが、女声のように聴こえますよ。

——バロック・オペラでは即興や装飾がとても重要です。

そうですね。バロック音楽の価値はそ

こにあるのではないのでしょうか。以前はバロック音楽は退屈と思われがちでしたが、今は即興や装飾が復活したおかげで面白いと受け止められています。

ヘンデルの時代のカストラートは、歌手の即興や装飾をすべて自分でやっていたが、書かれた時代や場所によって即興のやり方、様式が違つたので、どこでどんな風に書かれたかということまで考えなければなりません。ですので、70%は私が考えます。楽器の装飾や即興については、その場でやりま。お楽しみに!

my hall myself

私にとっての神奈川県立音楽堂

音楽堂は劇場のサイズも、歌手とオーケストラが同じ高さで演奏できて完璧な一体感が得られる点でも当時の劇場に近い空間です。音響もとてもいいので、歌手の丸くてもやわらかい声ですみずみまで届くところも気に入っています。モダンな劇場は大きすぎるし、オーケストラがピットに入つてしまつと、声が大いことこのほうが重要になってしまつ。それでは、声の「すべて」を届けるのは難しいですからね。

取材・文: 加藤浩子

撮影: 藤原亮子





エウローパ・ガランテ



開館65周年記念 音楽堂室内オペラ・プロジェクト
バロック・オペラ
ヘンデル「シッラ」全3幕 日本初演
 神奈川県立音楽堂

ヘンデルの最も美しく謎につつまれたオペラ「シッラ」
 ビオンディとエウローパ・ガランテが再び伝説の幕を開ける

熱狂を生んだ2015年の音楽堂開館60周年記念「メッセニアの神託」から5年。ファビオ・ビオンディ率いるエウローパ・ガランテによるオペラが音楽堂に帰ってきます。

彼らが開館65周年を迎える音楽堂のために選んだのは、ヘンデルの「ロンドン・オペラ」の中でも、全編が美しい旋律に満ちているにもかかわらず上演にまつわる謎が多く、通の間でしか知られていなかったオペラ「シッラ」です。

ビオンディとエウローパ・ガランテによる「シッラ」は、2017年に絶賛されたウィーン・コンツェルトハウスにおけるコンサート形式上演の録音が日本でも発売されたばかりです。その主要キャスト(シッラ役:ソニア・ブリナ、メテッラ役:スヘイム、レピド役:ヴィヴィカ・ジューノ、フラヴィア役:ロベルタ・インヴェルニツィをはじめ、この夏来日し、バースタインの「オン・ザ・タウン」で喝采を浴びたコントラルトのヒラリー・サマーズが、独裁者シッラに立ち向かう騎士クラウディオ役で再来日するなど、古楽界を中心に世界で活躍する実力派歌手が揃います。

さらにこの公演では、「メッセニアの神託」でビオンディと強い信頼関係を結んだ演出・彌勒忠史と、日本が誇る気鋭のクリ

エーターが舞台版世界初演を担うヘクルジャパン・プロダクションにも期待が高まります。これほど贅沢な布陣による上演が、音楽堂で2回限り。今シーズンの音楽界で話題をさらうことは間違いありません。どうぞお見逃しなく！

「シッラ」は、古代ローマの独裁官で実在したルキウス・コルネリウス・スッラ(前138-前78年)をモデルとした暴君・シッラの悪行と妻の愛による改心の物語ですが、展開が早く、突如訪れるどんでん返しも難解です。オペラ鑑賞の参考にあらずじをご紹介します。

ローマの広場に凱旋した執政官シッラは妻のメテッラと護民官レピドに迎えられ祝辞を受けた後、ローマに独裁政治を宣言する。レピドの妻フラヴィアが現れ、「この国が怪物によって灰燼に帰す幻影を見た」とおののき、「稲妻が凱旋門を破壊する」と予言をする。シッラの副官カトゥルスの娘チエリアと騎士クラウディオは互いに愛し合っている。クラウディオは大胆にもシッラの独裁に異を唱え、チエリアは彼をかばおうとするが、シッラは怒り狂う。

神殿に人々が加護を求め集まり、フラヴィアも祈っている。その美しさに欲望を



ソニア・ブリナ



彌勒忠史(演出)



スneh・ハイム



ヒラリー・サマーズ

ロベルタ・インヴェルニッツィ
©Ribaltaluce Studio

ヴィヴィカ・ジュノー



ミハエル・ボルス



マリア・イノホサ・モンテネグロ



ファビオ・ピオンディ (音楽監督)

「シッラ」2017年ウィーン・コンツェルトハウス公演・ライブ録音風景
(東京エムプラス/GLOSSA) ©Bernhard Trebuch

開館65周年記念 音楽堂室内オペラ・プロジェクト バロック・オペラヘンデル「シッラ」全3幕

日本初演(イタリア語上演/日本語字幕付)

2020年2月29日(土)・3月1日(日) 14:00 神奈川県立音楽堂

*13:15 ~ ピオンディによるプレトーク

音楽: G. F. ヘンデル 台本: ジャコモ・ロッシ

音楽監督: ファビオ・ピオンディ (指揮・ヴァイオリン)

管弦楽: エウローパ・ガランテ

演出: 彌勒忠史

美術: tamako☆ 衣裳: 友好まり子 照明: 稲葉直人 (ASG)

台本・字幕翻訳: 本谷麻子 舞台監督: 大澤 裕 (ザ・スタッフ)

シッラ: ソニア・ブリナ (コントラルト)

クラウディオ: ヒラリー・サマーズ (コントラルト)

メテッラ: スneh・ハイム (ソプラノ)

レピド: ヴィヴィカ・ジュノー (メゾ・ソプラノ)

フラヴィア: ロベルタ・インヴェルニッツィ (ソプラノ)

チェリア: マリア・イノホサ・モンテネグロ (ソプラノ)

神: ミハエル・ボルス (バリトン)

全席指定 S15000円 A12000円 B10000円

学生(24歳以下) 8000円

*未就学児入場不可 託児サービスあり

*開場開演前 無料シャトルバスあり



覚えたシッラは彼女に言い寄るが、きつぱりと断られる。その後シッラが眠りにつくと、神が現れ、ローマを恐怖で支配するよう告げる。眠りから覚めたシッラはすぐに、神殿で祈りを捧げる人々を皆殺しにする。この残忍な行為をレピドに咎められたシッラは、自分は何でも好きなようにできると豪語したうえ、妻フラヴィアを自分に譲れと命じる。さらにシッラは、妻メテッラの目の前でチェリアに言い寄る。また再びフラヴィアを誘惑しようとするが、レピドに阻まれたため、二人を逮捕させ、クラウディオも投獄し、チェリアを監禁する。そしてメテッラの侍女スカプロにクラウディオとレピドの暗殺を命じるが、スカプロはメテッラに説得され

シッラを欺く。その矢先、シッラはローマを離れてシチリアへの任務を与えられる。出発前にも一度チェリアを誘惑し、フラヴィアにも言い寄るが、または拒絶される。シッラは出帆するが、船は激しい嵐で沈没してしまい、メテッラが救出に向かう……!

オペラ公演に先立ち、「シッラ」をはじめヘンデルのオペラを題材としたレクチャーコンサートやマスタークラス、舞台美術ワークショップ等を予定、本公演当日にはピオンディによるプレトークを両日ともに開催します。詳細は決まり次第HP等で発表。ヘンデルのオペラ「シッラ」の世界を存分にお楽しみください。



「女神と男神が桃の木の下で別れる：川中島」(部分)2016年 作家蔵

やなぎみわ展 神話機械



MIWA YANAGI : Myth Machines

神奈川県民ホールギャラリー

美術と舞台を往還するやなぎみわ、10年ぶりの大規模個展

たわわに実をつけた桃の木が、妖しくも美しく闇の中に浮かび上がる。

「女神と男神が桃の木の下で別れる」と題された本作品には、「古事記」のイザナミ(女神)とイザナギ(男神)を背景とした物語がある。火の神を産んだ時に火傷を負って死んでしまった女神は、死者の世界である黄泉の国へと降りた。妻への想いを抑えきれず、黄泉の国を訪ねた男神は、「決して覗いてはいけない」と言われた禁断の扉を開けてしまう。そこに女神の変わり果てた姿を目にして、怖れをなした男神は逃げ出した。怒った女神は、黄泉の国の鬼女たちに追いかけさせた。男神は頭上の葡萄や足元の筍を投げ、鬼女たちを追い払おうとする。ついに女神が自ら追いかけて、黄泉の国この世の境、黄泉平坂にたどり着いたところで、男神はそこに実っていた桃を引きちぎり、女神に投げつけた。こうして女神と男神は決別し、女神は死の国へ、男神は生の国へと戻った。

この物語にやなぎは、一つの世界が二つに別れ、さらに果てしなく別れていく悲劇の始まりを見ている。本シリーズ4作品12枚の大幅写真を一堂に展示する空間で、私たちは桃の木に囲まれ、異世界との境界へと誘われるだろう。

ライブパフォーマンス『MM』2019年
撮影：表 恒国 提供：高松市美術館





やなぎみわ展 神話機械

MIWA YANAGI : Myth Machines

2019年10月20日(日)～12月1日(日) 10:00-18:00 (入場は17:30まで) ※木曜日は定休日

神奈川県民ホールギャラリー

一般1000円 学生・65歳以上700円 高校生以下無料

※障害者手帳をお持ちの方と付き添いの方1名は無料

※11/29(金)、30(土)はライブパフォーマンス開催のため17:00に閉場(入場は16:30まで)

※チケットがながわでの取り扱いなし(展覧会受付にて販売)

ライブパフォーマンス『MM』

2019年11月29日(金)・30日(土) 19:30 (19:00受付 上演時間約1時間)

構成・演出:やなぎみわ

出演:高山のえみ 音楽:内橋和久

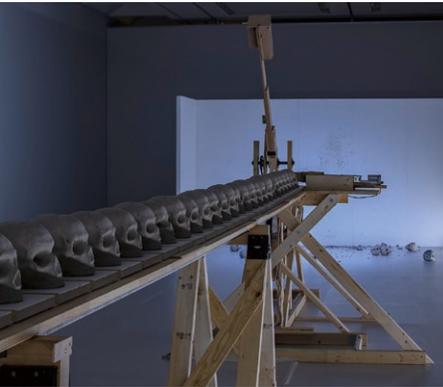
全席自由(入場整理番号付) ベンチ席2000円 立見1500円

KAme先行10/19(土) 一般発売10/20(日)

※本プロジェクトは、JSPS科研費JP17H00910Iに関連する作品です。



「My Grandmothers:YUKA」2000年 作家蔵



「神話機械:ムネーマー(投擲マシン)」2019年
撮影:表恒匡

そして、本展のタイトルと同じ「神話機械(Myth Machines)」と題されたもう一つの新作は、ギリシャ神話の文芸を司る女神たちの名を与えられた4台のマシンによる無人の演劇空間である。ベルトコンベアに並んだドクロを壁に投げつける投擲マシン「ムネーマー」。それに呼応するように喝采を送る振動マシン「テルプシコラー」。ロープで繋がれた手足がのたつ「メルポメネー」。メインマシン「タレイア」が走行しながらそれらに照明を当て、音楽や台詞を奏で、劇が進行する。やなぎの構成・演出により、シェイクスピアやギリシャ悲劇、ドイツの劇作家ハイナー・ミュラーによる『ハムレット・マシーン』『メディアマテリアル』、20世紀フランスの美術家マルセル・デュシャンの作品などが重層的に織り込まれている。

本作の実現に向けて2017年に「モバイル・シアター・プロジェクト」が立ち上がった。本展のタイトルと同じ「神話機械(Myth Machines)」と題されたもう一つの新作は、ギリシャ神話の文芸を司る女神たちの名を与えられた4台のマシンによる無人の演劇空間である。ベルトコンベアに並んだドクロを壁に投げつける投擲マシン「ムネーマー」。それに呼応するように喝采を送る振動マシン「テルプシコラー」。ロープで繋がれた手足がのたつ「メルポメネー」。メインマシン「タレイア」が走行しながらそれらに照明を当て、音楽や台詞を奏で、劇が進行する。やなぎの構成・演出により、シェイクスピアやギリシャ悲劇、ドイツの劇作家ハイナー・ミュラーによる『ハムレット・マシーン』『メディアマテリアル』、20世紀フランスの美術家マルセル・デュシャンの作品などが重層的に織り込まれている。

本展の実現に向けて2017年に「モバイル・シアター・プロジェクト」が立ち上がった。マシン製作には美術系、機械工学系の大学、高等専門学校、高校および開館が参加。やなぎと共にSKoDe会議などを重ね、作品のイメージに込めるべく技術やアイデアを交換し改良を重ねてきた。人間不在の世界でマシンだけが淡々と劇を演じ続ける「種のデイストピア」のようでもあるが、巡回展が始まってからも裏ではメンテナンスが欠かせず、マシンと人の手による協働作業が続く。さらに、会期中にはマシンと俳優、ミュージシャンが境界を超え共演するライブパフォーマンス『MM』が上演され、生と死の混沌とした世界が描き出される。

1990年代から現在に至るまで、現代美術のみならず演劇界でも忘れられないアートシーンを創出してきた美術家ややなぎみわ。10年ぶりとなる大規模個展では、新作に加え、これまでの代表作「エレベーター・ガール」、「マイ・グランドマザーズ」、「フェアリー・テール」シリーズのほか、映像作品、演劇アーカイブなどが並び、やなぎの仕事の網羅的に見ることが出来る。

高松からスタートし、前橋、福島、神奈川、静岡へと巡回する本展では、美術と演劇の両極を往還しながら生み出される、やなぎの汲みつくせぬ創造の泉にせまる。

文・森谷佳永(本展担当学芸員)



やなぎみわ 提供:熊野新聞

やなぎみわ

1967年神戸市生まれ。1990年代より女性をモデルにCGや特殊メイクを駆使した写真作品で注目を集める。2009年に第53回ヴェネチア・ビエンナーレ日本館代表。国内外で個展多数。2010年より演劇プロジェクトを開始し、『1924』三部作、『ゼロ・アワー 東京ローズ最後のテーブル』など上演。2016年よりステージ・トレーラーによる野外劇『日輪の翼』を横浜・新宮・高松・大阪・京都で上演。



一柳 慧(作曲家・ピアニスト) ©Koh Okabe



エリザベス・オゴネク
(作曲家)



フラックス弦楽四重奏団



神奈川県民ホール 開館45周年記念 一柳 慧プロデュース フラックス弦楽四重奏団 現代を生きる音楽 II -New Sounds from NY-

神奈川県民ホール

現代音楽の寵児が待望の再来日! 衝撃の室内楽体験を再び!

一柳 慧プロデュース
フラックス弦楽四重奏団

現代を生きる音楽 II
-New Sounds from NY-

神奈川県民ホール (小ホール)

出演: トム・チウ (ヴァイオリン)
コンラード・ハリス (ヴァイオリン)
マックス・メンデル (ヴィオラ)
フェリックス・ファン (チェロ)
エリザベス・オゴネク (招待作曲家)

●コンサート①

系譜-Family Tree of American Composers

2020年1月11日(土) 15:00

ナンカロー:弦楽四重奏曲 第3番
オゴネク:

ランニング・アット・スティル・ライフ
バルトーク:弦楽四重奏曲 第5番 他

●コンサート②

一柳 慧 弦楽四重奏曲 全曲演奏会

2020年1月18日(土) 15:00

全席指定 一般4000円
セット券(1/11&1/18) 7000円
学生(24歳以下・枚数限定) 1000円

●関連企画

弦楽四重奏曲の公募、公募新作によるワークショップ、公開リハーサル、シンポジウムを行います。
詳しくは神奈川県民ホールのHPをご覧ください。

神奈川県民ホールでは2020年の開館45周年を記念して、一柳慧(作曲家・ピアニスト・神奈川県芸術文化財団芸術総監督)のプロデュースによるフラックス弦楽四重奏団来日公演を開催します。フラックス弦楽四重奏団は1996年にニューヨークで、ヴァイオリニストのトム・チウを中心に結成された弦楽四重奏団。2015年に初来日、神奈川県民ホールではナンカロー、ケージ、一柳慧など日米の多彩な現代音楽を披露し鮮烈な日本デビューを果たしました。また2017年には渋谷のエスバス・ルイ・ヴィトン東京で開催された「ダン・フレイグリン」展でフェルドマンの弦楽四重奏曲第2番(演奏時間は6時間にも及ぶ)を演奏し、大きな注目を集めました。今回の来日公演ではバルトークの傑作「弦楽四重奏曲第5番」をメインにした彼らのオ

リジナルプログラム(1/11)と、一柳慧の弦楽四重奏曲全曲演奏会(1/18)という二つのプログラムが予定されています。特に2018年に彼らにより初演された「弦楽四重奏曲第5番」の日本初演は必聴です。そのほか関連企画として、新作の弦楽四重奏曲を公募し、作曲家とフラックス弦楽四重奏団によるワークショップ、作曲委嘱等についてのシンポジウムを行います。またフラックス弦楽四重奏団と縁が深くシカゴ響、ロンドン響などから引く手数多の新鋭作曲家・エリザベス・オゴネクが初来日し自作の公開リハーサル、シンポジウムに参加します。既存の弦楽四重奏団とはまったく違った視点から「刺激的」で「カッコいい」現代音楽を体現する彼らの圧倒的パフォーマンスをお見逃しなく!



加藤のぞみ アグンダ・クラエワ 福井 敬 城 宏憲



今井俊輔 与那城 敬 ©永友ヒロミ



高橋絵理 嘉目真木子 ©T.Tairadate



チケットかながわ
WEB予約(24時間)
Tel. 0570-015-415 (10:00~18:00) f t

神奈川県民ホール・オペラ・シリーズ2019 グランドオペラ共同制作 ビゼー作曲 オペラ「カルメン」全4幕

神奈川県民ホール

不朽の名作が、スタイリッシュによみがえる!

「カルメン」と聞いて、あなたは何を思い浮かべますか？ 魔性の女、官能的なフラメンコ、興奮に沸きあがる闘牛場……？ “パナエラ”や“闘牛士の歌”など名旋律が散りばめられたビゼーの傑作オペラ「カルメン」は、1830年頃のスペイン・セビリヤが舞台、タバコ工場で働く女カルメンが、真面目な士官ドン・ホセを翻弄し、花形闘牛士のエスカミーリョらを巻き込みながら衝撃的な結末を迎える物語ですが、この秋に上演されるオペラ「カルメン」では、オペラ界の旗手・田尾下哲が、その楽譜と台本をゼロから洗い直し、美しくスタイリッシュな演出で現代によみがえらせます。

今回の舞台は、表向きは煌びやかでありながら、裏では策略や危険に満ちたシヨールビジネスの世界。そこで渦巻く成功への欲望や男女の愛憎は、まさにビゼーのオペラ「カルメン」で描かれる人間の本性そのもの。明日のスターを夢見る野心的な女優カルメン、真面目な警官ドン・ホセ、その婚約者で次世代のミュージカルスターのミカエラ、カルメンに目をつける大スターのエスカミーリョ。4人の男女を中心に、バーレスク、ブロードウェイ、映像の世界へと舞台を移しながら、欲望と愛情の狭間で揺らめく人間たちの姿をドラマティックにあぶり出します。

指揮は、ウイーン国立歌劇場などでタクトをとるジャン・レイサムリケニック。カルメン役には、スペインを拠点に活躍する加藤のぞみと、ポリシヨイ劇場の第一人リスト、アグンダ・クラエワ。ドン・ホセ役には、日本が誇るスーパーテノール福井敬と、気鋭の若手・城宏憲を迎えるほか、豪華なソリストとクリエイターが集結します。輝く才能が贈る21世紀版の極上のオペラ「カルメン」に、どうぞご期待ください!

2019年10月19日(土)・20日(日) 各日14:00
(大ホール)
指揮:ジャン・レイサム=ケーニック
演出:田尾下哲 装置・衣裳:マドリン・ボイド
照明:喜多村貴 振付:キミホ・ハルバート
出演(19日/20日)
カルメン:加藤のぞみ/アグンダ・クラエワ
ドン・ホセ:福井 敬/城 宏憲
エスカミーリョ:今井俊輔/与那城 敬
ミカエラ:高橋絵理/嘉目真木子
フラスキータ:清野友香莉/青木エマ
メルセデス:小泉詠子/富岡明子
モラレス:近藤圭/榎 貴志
スニガ:斉木健詞/大塚博章
ダンカイロ:大沼 徹/加藤宏隆
レメンダード:大川信之/村上公太
合唱:二期会合唱団
児童合唱:赤い靴ジュニアコーラス
管弦楽:神奈川フィルハーモニー管弦楽団
全席指定 S16000円 A13000円
B9000円 C7000円 D5000円
E売切 学生(24歳以下・枚数限定)2000円



荻野由美子 ©Y.Yagyu 石井喜久子

オルガン クリスマスコンサート

神奈川県民ホール

聖なるクリスマスはオルガンと打楽器のスペクタクルな響きで彩る特別なコンサート。県民ホール・オルガン・アドヴァイザーの荻野由美子と日本を代表する打楽器奏者・石井喜久子の演奏で心弾むひとときをお楽しみください。



2019年12月20日(金) 19:00
(小ホール)
出演:荻野由美子(オルガン)
石井喜久子(打楽器)
ラヴェル:ボレロ
～オルガンと打楽器のための～
バッハ:パッサカリア BWV582 他
全席指定
一般3500円 ペア6500円
学生(24歳以下・枚数限定)2000円
KAmE先行9/14(土)
一般発売9/21(土)



大平健介、岸上 穰 ©Sandra Wolf

オルガン・プロムナード・ コンサートスペシャル

神奈川県民ホール

「時を超えて beyond the time」をテーマにお送りしている本年度のオルガン・プロムナード・コンサート。10月は共演者を迎えたスペシャルバージョン! ドイツを拠点に活躍する若手オルガン奏者 大平健介と東京都交響楽団ホルン奏者 岸上穰が登場します。終演後には、オルガン見学も行います。



2019年10月25日(金) 12:20
(約40分・休憩なし) (小ホール)
出演:大平健介(オルガン)
岸上 穰(ホルン)
G.リテーズ:
ホルンとオルガンのためのトリプティーク
C.サンサーンス:
ホルンとオルガンのためのアンダンテ 他
全席自由 500円



2019年10月12日(土) 14:00

出演: **アントネッロ** (古楽アンサンブル)

濱田芳通(リコーダー/コルネット) 石川かおり(ヴィオラ・ダ・ガンバ)

西山まりえ(ヴァージナル/ルネサンス・ハープ)

天野寿彦(リラ・ダ・ブラッチョ) 濱元智行(パーカッション)

阿部雅子(ソプラノ) 中嶋克彦(テノール)

カメラータ・エテルナ (ルネサンスダンス)

聖和笙 和泉百合

レオナルド・ダ・ヴィンチ: 愛だけがそれを思い出させてくれる

ロレンツォ・デ・メディチ: ラウロ

ドメニコ・ダ・ピアチェンツァ?: バッロ「恋人」

ジョスカン・デ・プレ: スカラメラは戦争に行く

ヤコブ・アルカデルト: マルゴはぶどう畑を耕すよ 他

全席指定 一般3500円 学生(24歳以下)2500円

*未就学児入場不可(託児サービスあり)

*開場、開演前 無料シャトルバスあり

*当日はリラ・ダ・ブラッチョ(天野寿彦)と歌/ゴシック・ハープ(乙顔有希)のミニ・パ

フォーマンスなど含むイタリア&ルネサンス関連のマルシェ開催予定(10:00-17:00)

詳細は音楽堂HPをご確認ください。

音楽堂アフタヌーン・コンサート 古楽アンサンブルアントネッロ

「没後500年～レオナルド・ダ・ヴィンチ 音楽の謎解き」

神奈川県立音楽堂

ルネサンス万能の巨人、レオナルド・ダ・ヴィンチは音楽家でもあった……。没後500年、その謎に迫る!



濱田芳通

石川かおり

西山まりえ



天野寿彦

濱元智行

阿部雅子



中嶋克彦

聖和笙

和泉百合 ©井上晴一郎

1994年の結成以来、常に最先端を走る古楽アンサンブルとして、海外からも高い評価を受けるアントネッロが、「500年に一度のプロジェクトに挑戦します。」
テーマは、今年没後500年を迎えるレオナルド・ダ・ヴィンチ。
美術をはじめ、あらゆる分野で縦横無尽に活躍したこのルネサンスの巨人は、ミラノ公の御前でヴァイオリンの祖先リラを奏で、自ら設計したその楽器を献上、さらにオペラをプロデュースするなど、音楽の才能も発揮していたことが数々の資料から垣間見えます。
今回のコンサートでは、古楽器の美しい音色と歌、さらにルネサンスダンスで、レオナルドが生きたルネサンス期音楽の深遠な世界に分け入り、今に甦る華やかなりし古の世界に誘います。



2019年11月30日(土) 15:00

出演: アルディッティ弦楽四重奏団

小尻健太(振付/ダンス)*

細川俊夫: 新曲

西村 朗: 弦楽四重奏曲第6番「朱雀」

ヴォルフガング・リーム: 弦楽四重奏曲第3番*

ヴォルフガング・リーム: Geste zu Vedova

～ヴェドヴァを讀んで*

全席指定 一般6000円 シルバー5500円

学生(24歳以下)3000円

*未就学児入場不可(託児サービスあり)

*開場、開演前 無料シャトルバスあり



小尻健太

©momoko japan



アルディッティ弦楽四重奏団

世田谷文化財団提供 ©青柳聡

音楽堂ヴィルトゥオーゾ・シリーズ25 アルディッティ弦楽四重奏団×小尻健太

神奈川県立音楽堂

驚異的なテクニクで20世紀以降の音楽を演奏し続けているアルディッティ弦楽四重奏が、ついに音楽堂に登場します。現代最高峰のヴィルトゥオーゾ、ヴァイオリンのアーヴィン・アルディッティが1964年に創設し、以来、数百もの弦楽四重奏曲が彼らのために作曲されました。作曲家とともに解釈を深め、その多くが現代の代表的なレパートリーとなっており、彼らの存在自体がひとつのジャンルといえます。
細川俊夫の新作と西村朗の2017年作の「朱雀」では、日本を代表する二人の作曲家と厚い信頼で結ばれた彼らが、極限まで研ぎ澄まされた至芸を「木のホール」として響きに定評のある音楽堂に響かせるでしょう。
ドイツの作曲家ヴォルフガング・リームが20代に作曲した四重奏曲第3番、そしてイタリアの前衛画家エミリオ・ヴェドヴァの作風を音で表現した「ヴェドヴァを讀んで」に、ネザールランド・ダンス・シアターで巨匠イリ・キリアンのもと活躍し、自身も振付家、ダンサーとして世界で活躍する小尻健太が振付け、踊ります。絵画から刺激を得た音楽が、小尻の身体を通して伝えるものとは……音楽ファン、ダンスファンならずとも目が離せません!
*10月27日(日)14時(街なかトックカフェ)講師: 小尻健太 会場 BUKATSUDO
「ダンスと音楽のフシギなカンケイ」受付中

とことん
個性、
舞台、
ぞくぞく。

ともに生きる ともに創る 共生共創事業

神奈川県では、年齢や障がいなどにかかわらず、全ての人が舞台芸術に参加し楽しめる「共生共創事業」を実施しています。



年間ラインアップ発表を開催しました!

7月17日(水) 13時より県民共済みらいホールにて、今年度の共生共創事業の年間ラインアップ発表が行われました。第1部では今年度公演を行う団体の代表者にもご登壇いただきました。また、かながわシニア創作創造プロジェクトの3人のリーダー(安藤洋子氏、横田和弘氏、浅生礼史氏)によるクロストークも行われ、意気込みなどをうかがい知る機会となりました。第2部では8月に行われたドリームエナジープロジェクト「21番目の素敵な出逢い」が創作されるきっかけとなった、山田火砂子監督「筆子・その愛 ―天使のピアノ―」の上映会も行われました。

次回公演は「河の童 ―かわのわっぱ―」
川崎市を拠点に39年の実績をもつ日本で唯一の、ろう者(deaf)と聴者とともに創る専門人形劇団として活動を続けてきた「デフ・パペットシアター・ひとみ」による公演です。「河の童 ―かわのわっぱ―」は、異なる世界に生きている河童と人間に焦点をあて「共にいきる」ことの本質に迫る作品です。



左から 内海智子、吉村衣世、稲村徹、伊地知裕子、安藤洋子、横田和弘、浅生礼史、赤池玲子(敬称略)

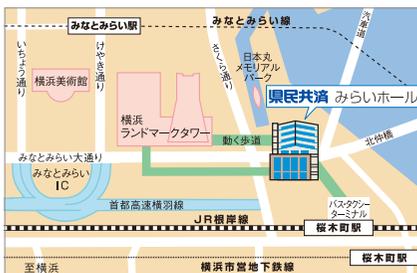
年間ラインアップ

- | | |
|----------------|--|
| 7/17(水) | ●2019年度共生共創事業 ラインアップ発表会 |
| 8/4(日) | ●ドリームエナジープロジェクト「21番目の素敵な出逢い」 |
| 8/25(日)~27日(火) | ●WASAWASA! ジャンワークショップ&ミニコンサート |
| 11/2(土) | ●横須賀シニア劇団 中間発表公演 |
| 11/28(木) | ●デフ・パペットシアター・ひとみ「河の童 ―かわのわっぱ―」 |
| 12/19(木) | ●綾瀬シニア劇団 中間発表公演 |
| 1/19(日) | ●横浜並木男声合唱団 コンサート
―平均年齢72歳の男声合唱団が歌って踊れる秘密― |
| 1/25(土) | ●サルサガムテープ Live2020 |
| 2/15(土)、16(日) | ●第7回インテグレイテッド・ダンス・カンパニー響―Kyo公演 |
| 2/29(土)、3/1(日) | ●シルヴプレ 結成20周年記念公演 |
| 3/7(土) | ●横須賀シニア劇団 成果発表公演 |
| 3/14(土)、15(日) | ●綾瀬シニア劇団 成果発表公演 |
| 3/21(土)、22(日) | ●チャレンジ・オブ・ザ・シルヴァー 成果発表公演 |



デフ・パペットシアター・ひとみ 「河の童 ―かわのわっぱ―」

2019年11月28日(木) 14:00 県民共済みらいホール
全席自由・整理番号付 一般3000円
子ども(3歳~高校生)1500円



access

県民共済 みらいホール 横浜市中区桜木町1-1-8-2 県民共済プラザビル1F

- JR 根岸線「桜木町」駅下車 徒歩約3分
- 横浜市営地下鉄「桜木町(県民共済プラザ前)」駅下車 徒歩約7分
- みなとみらい線「みなとみらい」駅下車 徒歩約10分

※一部事業について、別会場で実施するものもございますので、必ず会場をご確認ください。
※駐車場はございません。

主催：神奈川県 協力：神奈川県民共済生活協同組合 公式サイト kyosei-kyoso.jp

チケット予約：チケットかながわ 0570-015-415 (10:00~18:00)



ヨーゼフ・ボイス
Joseph Beuys Filtz TV by Lothar Wolleh

美術の小箱

「美術」と「パフォーマンス」

知れば、
知るほど、
好きになる

芸術におけるパフォーマンス。音楽、演劇、ダンスであれば文字通り演奏、演技となり、一般的に劇場やホールで舞台上で上演されます。では、美術における「パフォーマンス」とはどのようなものなのでしょうか。

一般的に「パフォーマンスアート」と称されるこの表現は、美術（視覚芸術）の一分野であるものの、絵画、彫刻、工芸、写真、映像などの物体が作品を構成する表現とは異なり、美術作家の身体や作家のディレクションによる複数の人物の動きで作品が構成されます。また、ホワイトキューブ（白壁の空間）という特性や開館時間の制約をもつ美術館だけでなく、広場、教会、工場などで長時間に渡る作品

としても実現されています。

20世紀美術における代表的なパフォーマンスアート作品の一つに、ドイツの作家ヨーゼフ・ボイスの『コヨーテー私はアメリカが好き、アメリカも私が好き』(1974年)が挙げられます。ボイスは、ニューヨークの空港到着後、どこにも立ち寄らず画廊に赴き、展示空間に新聞や干し草などが積まれた環境で、アメリカ先住民にとって聖なる動物と位置づけられていたコヨーテとともに一週間過ごしました。このパフォーマンス期間中は彼がスタッフ以外のアメリカ人には一人も会わず、アメリカの日常生活に触れることなくドイツに帰っており、この作品は、先住民の生活や文化を

排除し発展を続けてきたアメリカ社会を暗に批判したものとと言えます。

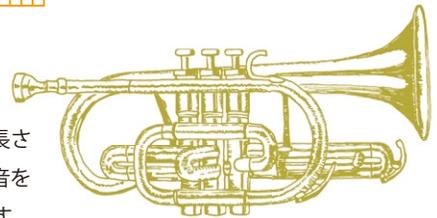
音楽においても、楽器を使用する演奏という表現の中で、「パフォーマンス」性を孕んだ作品があります。ボイスと同じく20世紀において実験的創作活動で名高い作曲家ジョン・ケージの『4分33秒』(1952年)です。この3楽章から成るピアノ曲は、楽譜に比較的長い間の休みを意味する「TACET」^{タセット}が記されており、ピアニストはピアノの前で終始、沈黙をした状態で「演奏」を行います。

この10月に開催される、やなぎみわの個展「神話機械」*でも美術の多角的表現としてのパフォーマンスが予定されていますので、ご期待ください。

*詳細はP8-9特集ページをご覧ください。

楽器ミュージアム

コルネット



ブラスバンドやジャズなどで活躍する「コルネット」。図の通りトランペットそっくり。実際、管の長さがトランペットと同じなので、音域も同じですが、トランペットより太く柔らかい音色が特徴です。

この違いは、コルネットがホルン（角笛）を原型とするから。1834年フランスのホルン奏者F.ペリネがポストホルン*に円筒式バルブを装着して誕生しました**。

産業革命の技術進歩の時代を迎えた19世紀初頭。本シリーズでもご紹介してきたとおり、管楽器に水道やガス管の開閉に使われる「バルブ装置」を装着し、長さの異なる管を何

本も持ち替えずに、容易に管の長さを切り替えて、さまざまな高さの音を奏することができるようになります。

コルネットは、トランペットと比べると、管の内径が太く、マウスピースも深さがあり、終端のベルに向かう管の円錐の角度も広がっています。このため、その音色の特徴に加えてトランペットより演奏が容易で、19世紀のフランスではトランペットよりも高い人気を誇りました。

フランスの作曲家ビゼーの代表作、オペラ「カルメン」(1875年初演)でも、トランペットではなくコルネットが指定されています。

カルメンに復縁を迫るドン・ホ

セが逆上し彼女を刃にけるクライマックス。恋敵の闘牛士の勝利を祝う闘牛場からファンファーレが響きます。王侯貴族の勝利と征服を祝うトランペットではなく柔らかなコルネットの響きは、魔性の女に翻弄された素朴な青年ドン・ホセの、悲しい凶行の場にふさわしいといえるでしょう。

「カルメン」はこの10月、神奈川県立ホールで上演されます。お楽しみに。

*ポストホルン：郵便馬車の御者が合図で吹くラッパ。長い管を大きく巻いて肩にかける。
**フランスでは「コルネット」は「コルネ・ア・ピストン(ピストン付きホルンの意)」、ドイツでは「ピストン」と呼ばれる。



イラスト:遠藤裕喜奈

レオナルド・ダ・ヴィンチ 「聖アンナと聖母子」

レオナルド・ダ・ヴィンチは膨大な数のデッサンや手稿を残していますが、^{ペインティング} 絵画の数はわずか10数作品(研究者により諸説あり)にすぎません。そんな数少ない作品の中にあって、幼子イエスと聖母マリアを描いた聖母子画は5点にもおよびます。彼にとって、母子像は特別なものだったようです。

1452年、レオナルドはフィレンツェから西へ40km程のダ・ヴィンチ村で、地主で公証人のセル・ピエロ(25歳)と村娘カテリーナ(20歳?)との間に生まれました。身分の違いから二人は正式に結婚することなく、レオナルドが生まれたその年に、父ピエロはフィレンツェの富豪の娘アルビエーラ(16歳)と、実母カテリーナも煉瓦焼き職人と結婚しました。

父と継母は仕事の関係でフィレンツェに住み、レオナルドは祖父と村で暮らします。彼が11歳の時、アルビエーラが亡くなります。実母はもちろん継母を含め、母の愛というものには恵まれなかったようです。

1466年頃、レオナルドはフィレンツェ随一の工房を主

宰するヴェロッキオに弟子入ります。その後独立し、次々と傑作を発表していくのです。

1519年、レオナルドは国王フランソワ1世の庇護のもとフランスで亡くなります。その時まで生涯手元に置いていた作品が、あの「モナ・リザ」と「洗礼者ヨハネ」、そして「聖アンナと聖母子」です。

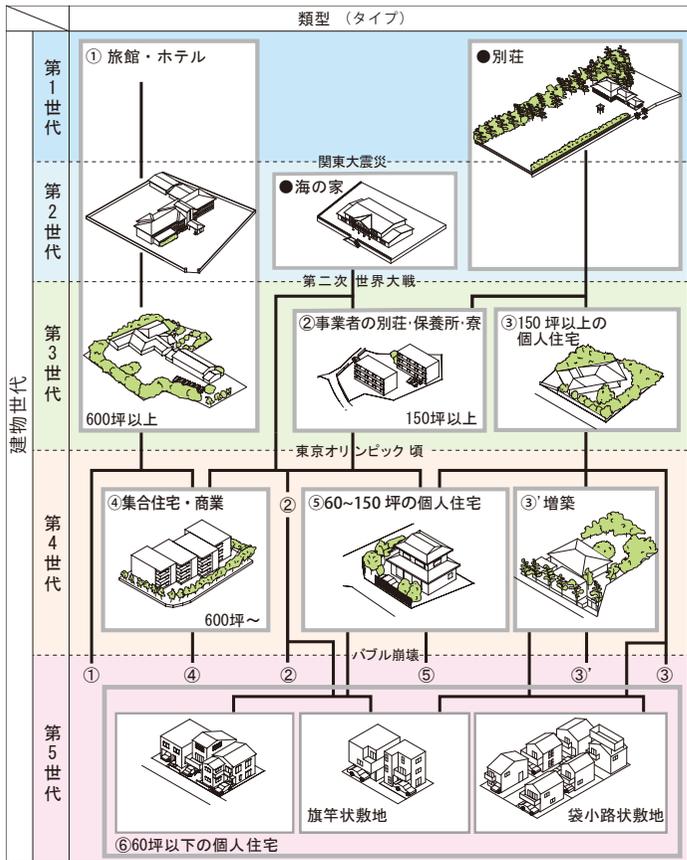
「聖アンナと聖母子」には、イエスとマリア、そしてマリアの母・聖アンナが描かれています。この絵には宗教的というよりも、日常的な母と子の愛情が溢れています。聖性を表す光輪さえ描かれていません。さらに、聖母マリアと聖アンナは親子というよりもまるで姉妹に見えます。その年齢差はちょうど実母カテリーナと養母アルビエーラのようなようです。「聖アンナと聖母子」は、息子レオナルドをみつめる優しい二人の母の姿なのかもしれません。

レオナルド・ダ・ヴィンチ Leonardo da Vinci (1452~1519)
イタリアのルネサンス期を代表する万能の天才。「モナ・リザ」、「最後の晩餐」といった美術作品はもちろん、音楽、建築、数学、幾何学、解剖学、動植物学、天文学、気象学、地質学、物理学、光学、土工学などさまざまな分野にわたり優れた業績を残した。

湘南邸園住宅地における建物の変遷
「逗子市沿岸部における建物世代のタイポロジー」

WEB +a!

志村真紀
横浜国立大学 地域実践教育研究センター 准教授・博士(デザイン学)。専門は建築意匠、地域・都市デザイン。東日本大震災を踏まえて、逗子市沿岸部において地域住民と共に事前復興計画を検討。2018年から逗子市総合計画審議会委員など。各地域のまちづくりやデザインに携わる。



逗子市沿岸部における建物世代のタイポロジー

湘南地域は相模湾に面した温暖な気候の地域である。1887(明治20年)の東海道線の開通をきっかけに、海辺と山辺の各地域で別荘地化が進み、戦後以降は東京や横浜のベッドタウンとして住宅が増えていった。今回紹介する逗子市沿岸部もその一つだ。昔からその土地に住んできた住民は、「新しく住宅をつくる時には、原風景や昔からの街並みの特徴を少しでも意識してほしい。」と語っている方が多いが、新しい住民のなかには、その土地の歴史・文化や、かつて別荘地であったことを知らない人も多いだろう。

そこで本稿では、逗子市沿岸部を事例として別荘地から住宅地へと変遷していった節目毎に世代を区切り、各世代の建物の特徴を類型化(タイプ化)し、その一連の流れを「タイポロジー」として紹介する。

逗子市沿岸部は、逗子駅の開設をきっかけに政治家、実業家、外国人らの別荘が建てられていった。黒松の自生林によるトンネルをくぐるように細い道があり、門や垣根による構えの内側には、広い庭に木造平屋建ての日本家屋や、あるいは和洋折衷の建物が建てられていた。しかし、1923年の関東大震災の地震や津波によって、それらの建物は全て流失や焼失してしまった。【第1世代】

その後、海岸に面した場所には、湘南で唯一の和洋折衷のなぎさホテルが建てられ、皇族、官僚、軍人、外国人などによる華やかな交流と文化が栄えた。また、海の家などの海浜施設も多く建てられ、日帰り客や短期滞在の客層が増えていった。【第2世代】

戦後は、敗戦と共に別荘を手放す人が多く、それらの多くは事業者の別荘や保養所となったが、1964(昭和39)年のオリンピック前までは、150坪以上の別荘が多く存在していた。【第3世代】

オリンピック後はベッドタウン化が進み、広い別荘の敷地はRC造の集合住宅や、60〜150坪の敷地に細分化された住宅が増えていった。【第4世代】

バブル崩壊後には、60坪以下、30坪以下の敷地も増えて木造住宅の密集化が進んでいった。そのため、津波が起きた場合に流失する建物の想定被害は、神奈川県内で逗子市沿岸部が一番高い割合となっている。【第5世代】

上の図は、各世代における特徴的な建物のタイプの変遷を示したものである。第5世代は2016〜2018年までに耐用年数が終わる予測である。今後、どのような地域にしていきたいのか、まさに今が節目の時期にあたるのだ。

かながわ
芸能
●
歳時記

第21回

漁業の町に残る、暮らしに密着した神楽
面神楽
（三浦市三崎／海南神社／11月）



国固め



主 協
力 催：海南神社面神楽保存神楽師会
三浦市教育委員会教育部文化スポーツ課
写真提供：三浦市教育委員会教育部文化スポーツ課

住所：神奈川県三浦市三崎4-12-11 海南神社
交通：京浜急行「三崎口」駅から三崎港・城ヶ島・通り矢・浜諸磯方面行のバスで「三崎港」下車 徒歩3分
日程：令和元年11月7日、8日
お問合せ：三浦市教育委員会教育部文化スポーツ課 046-882-1111

面神楽は、毎年11月最初の未の日の翌日の申の日と翌々日の酉の日に、海南神社で奉納されます。演目に合わせたさまざまな面を身につけた氏子の踊り手が、締太鼓、笛の軽快な囃子に合わせ舞う神楽で、三浦市指定重要無形民俗文化財です。

25座の演目があり、その中から毎年10座ほどが奉納されます。舞台を祓い清め国家安泰・五穀豊穡を願う「国固め」で始まり、天照大神の岩戸開きに材をとった「岩戸開き」で終わる流れになっており、その間に神話に基づいた演目や田畑を荒らすキツネを退治する「種まき」など暮らしに即した演目などが演じられます。

中でも漁の安全や大漁祈願を願った「恵比寿の舞」、誰もが知っている昔話「浦島太郎」などは、漁業の町三崎特有の演目です。

未の日に行なわれる湯立て神事の際に撒かれる霰餅とお湯を頂くと1年間無病息災といわれています。

●同時期(10、11月)開催のその他の祭り
多古白山神社の小田原囃子
(小田原市原町)白山神社／10月12日、13日
湯立神楽(藤沢市)白旗神社／10月28日

more! カナガワ

神奈川フィルハーモニー管弦楽団
待望、忘れ得ぬ輝きをいま一度

2019年11月16日(土) 14:00 横浜みなとみらいホール
カーチン・ウォン(指揮) 崎谷直人(ヴァイオリン) 門脇大樹(チェロ)
ワーグナー／歌劇「タンホイザー」序曲
ブラームス／ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲
エルガー／エニグマ変奏曲
全席指定 S 6000円 A 4500円 B 3000円
神奈川フィル・チケットサービス 045-226-5107 (平日10:00-18:00)
www.kanaphil.or.jp/ @kanagawaphil @instagram.com/kanagawaphil

神奈川近代文学館

特別展「中島敦展 魅せられた旅人の短い生涯」

2019年9月28日(土)～11月24日(日) 開館時間:9:30-17:00(入館は16:30まで)
休館日:月曜日(10/14・11/4)は 開館
作家・中島敦(1909～1942)の生誕110年を機に、中島の短くかつ起伏に富んだ人生を「旅」と捉えて振り返り、その珠玉の作品が今日見せる様々な広がりをご紹介します。観覧料：一般700円(65歳以上、20歳未満割引あり／中学生以下無料) TEL.045-622-6666 www.kanabun.or.jp

神奈川県立近代美術館 葉山

日本・フィンランド国交樹立100年記念 没後30年 カイ・フランク
2019年9月21日(土)～12月25日(水)
開館時間:9:30-17:00(入館は16:30まで) 休館日:月曜日(9/23・10/14・11/4)は開館
観覧料:一般1200円 20歳未満・学生1050円 65歳以上600円 高校生100円
同時開催:コレクション展「首をみる、色をさく 美術が奏でる音楽」
TEL.046-875-2800 www.moma.pref.kanagawa.jp/

神奈川県文化課

第5回全国高等学校日本大通りストリートダンスバトル

全国の高校生が熱いダンスパフォーマンスを繰り広げる「第5回全国高等学校日本大通りストリートダンスバトル」の決勝を開催。応募チームの中から、オンライン審査、予選を通過したチームが出場します!当日の様子は、J.COMで放送します。
2019年11月10日(日) 13:30～16:30(予定)(関東予選9:00～12:00(予定))
会場:日本大通り・神奈川県庁前特設ステージ(雨天時:神奈川県庁本庁舎 大会議場) 入場無料
TEL.0466-60-7550 (第5回全国高等学校日本大通りストリートダンスバトル実行委員会運営事務局)

REVIEW

神奈川県民ホール巡回事業 出張公演 in 南足柄&秦野 みんなでたのしむオペラ「ヘンゼルとグレーテル」

2019年8月4日(日) 南足柄市文化会館〈大ホール〉

2019年8月10日(土) 秦野市文化会館〈小ホール〉



©Eri Iwata

神奈川県民ホールの制作によるオペラやコンサートを、県内他地域のホールで上演する巡回事業。夏休み真っ最中の南足柄市と秦野市に出向き、名作オペラ「ヘンゼルとグレーテル」の約1時間のスペシャル版を、ピアノ演奏・日本語上演でお届けしました。パパとママが、いたずら好きの兄妹にお仕置きをするため、お菓子の家に住む魔女とその仲間に変装し、子どもたちを驚かせながらも、最後はハッピーエンドを迎えるというオリジナルストーリー。兄のヘンゼル役は、ソプラノの青木エマ。妹のグレーテル役は、ソプラノの鶴木絵里。男性ソプラノ歌手の岡本知高は、ママ役・魔女役の一人二役。パパ役は、今回の日本語訳詞台本も手がけた、バリトンの宮本益光。さらに地元の子どもたちが児童合唱として出演。素晴らしい歌声と熱演に、親子連れでにぎわう客席は笑ったり聞き惚れたり、大いに盛り上がりました。

お客様の声

小2の娘はオペラ初体験でしたが、ずっと見入っていました。演出や舞台も、歌も素晴らしく、楽しかったです！ここまで本格的なものが南足柄で見られるのは貴重です。ぜひまたやっていただきたいと思います。(40代女性)

初めてオペラを観ましたが生の声の響きに感動しました。子どもたちも頑張っていて感動しました。(40代女性)

とてもわかりやすく楽しかった。(40代女性)

ママとパパが生クリームとイチゴになったり、笑えるところがいっぱいあった。オペラって楽しい!(10代以下女性)

公益財団法人神奈川芸術文化財団をご支援いただいている方々

公益財団法人神奈川芸術文化財団では、賛助会員制度を始めとしたさまざまなご支援の仕組みを通じて、広く皆さまからご寄附・お力添えをいただいております。

公益財団法人神奈川芸術文化財団 賛助会員

法人賛助会員 株式会社アクトエンジニアリング / アサヒビール株式会社 / アズビル株式会社 / 学校法人岩崎学園 / 株式会社ヴォートル / 株式会社エス・シー・アライアンス株式会社 / NHKアート / 株式会社勝烈庵 / 一般財団法人神奈川県教育福祉振興会 / 公益財団法人神奈川県結核予防会 / 神奈川県信用保証協会 / 株式会社神奈川孔文社 / 株式会社神奈川保健事業社 / 神谷コーポレーション株式会社 / 川崎北ロータリークラブ / 川本工業株式会社 / かをり商事株式会社 / 株式会社共栄社 / 株式会社ケイエスピー株式会社 / KSP / 株式会社合同通信 / コトブキシーティング株式会社 / 株式会社シグマコミュニケーションズ / 株式会社ジェイコム湘南・神奈川横浜テレビ局 / 株式会社清光社 / 月島機械株式会社 / 株式会社テレビ神奈川 / 東工株式会社 / ナイス株式会社 / 株式会社日建設計 / 日産自動車株式会社 / 日生商工株式会社 / 日総ブレイン株式会社 / 日本発条株式会社 / 株式会社野毛印刷社 / パナソニックESエンジニアリング株式会社 / 平安堂薬局 / 株式会社ホテル、ニューグランド / 一般社団法人本牧関連産業振興協会 / 丸茂電機株式会社 / 三沢電機株式会社 / 森平舞台機構株式会社 / ヤマハサウンドシステム株式会社 / 株式会社有隣堂 / 株式会社豊商會 / 株式会社ユニコーン / 株式会社横浜アーチスト / 横浜新都市センター株式会社 / 横浜信用金庫 / 弁護士法人横浜パートナー法律事務所 / 横浜ビルシステム株式会社 / 株式会社ワイイーシーソリューションズ (匿名:2社)
永年個人賛助会員 川村恒明 個人賛助会員 味田健一/岩間良孝/岡田博子/黒瀬博晴/小山明枝/高岡俊之/中澤守正/橋本尚子/藤原靖也/三宅浩二/渡邊政彦 (匿名:3名)

協賛・協力

能舞台協賛 ナイス株式会社

協力 神奈川総合設備株式会社 / 神奈川トヨタ自動車株式会社 / 株式会社崎陽軒 / 株式会社野毛印刷社 / 株式会社富士住建 / 三菱地所株式会社

(敬称略 2019年8月21日現在)

ご寄附・ご協賛・ご協力のお申込み・お問合せ：本部経営企画課 045-633-3760 www.kanagawa-arts.or.jp/support/



神奈川県では、文化芸術の魅力で人を引きつけ、地域のにぎわいをつくり出す、マグネット・カルチャー略して「マグカル」の取組を推進しています。

マグカルQ

人生的一幕を、観に行こう。

神奈川文化プログラム



劇場の達人

ギャラリーをシェアしよう!

え・ユキナ



Kame かながわメンバーズ 登録無料!
 MELMAが無料配信
 KANAGAWA members チケットの先行予約が可能
 登録はWEBで! www.kanagawa-arts.or.jp/kame

神奈川芸術プレスはここにあります。
 神奈川県内の主な公共施設の情報コーナー、首都圏の公共ホール・公立図書館・博物館・書店・銀行等に配架しております。
 WEBでも読めます! www.artspress.jp

MAGCUL 神奈川県発、文化発信ポータルサイト
 MAGCUL マグカル ドット ネット
 MAGCUL.NET
CREATING CULTURE PROJECT EXHIBITION

ご支援のお願い



公益財団法人
 神奈川芸術文化財団

皆様のご支援が、 神奈川の文化と芸術を支える糧となります。

公益財団法人 神奈川芸術文化財団は、神奈川県民ホール、KAAT 神奈川芸術劇場、神奈川県立音楽堂を運営し、音楽・演劇・オペラ・ミュージカル・ダンス・伝統芸能の公演、美術展などの幅広いプログラムをお届けしています。これからも神奈川県内の文化・芸術を振興するとともに、神奈川から文化の発信を行なってまいります。皆様のおたがたいご支援をよろしくお願い申し上げます。

賛助会員
 (法人・個人)

年間を通じて財団の事業全般にご賛助。

個別協賛
 (法人・個人)

特定の公演等に対してご協賛。

広告スポンサー

主催公演のチラシや当日プログラム、「神奈川芸術プレス」などへの広告。

団体鑑賞

主催公演のチケットを福利厚生・販売促進等ツールとして。

弊財団への賛助会費(寄附金)には、税制上の優遇措置があります。

詳細・お申込み・お問合せ | 公益財団法人神奈川芸術文化財団 本部経営企画課 〒231-0023 横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル6階
 電話: 045 (633) 3760 FAX: 045 (663) 3714 www.kanagawa-arts.or.jp/support/

撮影: 本多康司

編集後記

本誌もついに150号の節目となりました。次なるステップへ向け、試行錯誤を続けてまいります! (お亀) 共生共創事業の年間ラインアップが発表されました。新たなロゴ通り舞台ぞくぞくです! (maru) 芸術の秋は、アート満載の神奈川で満喫してください。(倉)